

程度小の副詞を多用する日本語について：
コーパスと頻度辞典と日独翻訳資料を利用して

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部 公開日: 2021-01-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 城岡, 啓二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027872

程度小の副詞を多用する日本語について

—コーパスと頻度辞典と日独翻訳資料を利用して—

城 岡 啓 二

0. チョットやスコシなどの程度小の副詞を多用する日本語

彭 (2006: 24-32) は、彭 (1990) で書いていたチョットの研究を一般向けにまとめた1994年に出た本の改訂版である。日本語の「ちょっと」が「本来その語の持つ意味 (= 少し) から完全に離脱している」場合を幾つかとりあげている。

- ちょっとありません。
- こんな機会はちょっとないから、頑張ってください。
- あの子はちょっと。
- 課長はちょっと出ております。
- 外国人にはちょっと難しい。
- ちょっと厚かましいんじゃない!

「ちょっと」は「意味範囲が広く、用法はバラエティーに富み従来の研究では説明しきれないものがある」と述べ、「断定的な言いかたが避けられ、表現が柔らかくなり、丁寧度が増し会話の潤滑油の役割を果たす」とされ、「話し手も聞き手も、その『ちょっと』における時間や量の多少にはそれほど関心を持っていない」場合もあり、「何か言いにくい場合」や「要件を依頼する場合」や「相手の行動を制止する場合」に使われ、「自分あるいは身内の人の行為を誇張しないようにする表現」でもであると述べている。「ちょっと」の特殊性については、グループ・ジャマシー編 (1998)、真嶋・濱田 (1999)、劉 (1999)、岡本・斎藤 (2004)、笹本 (2006)、高野 (2016) と論考の発表が続いている。一方、チョットとの比較材料にされることも多いスコシについては、チョットのような多種多様な用法がないということに注目が偏ってしまったようである。彭 (2006) もスコシがチョットの本来の意味で、そこから逸脱した用法がチョットの特異な用法であると説明しようとしていたし、『すこし』には、程度副詞や量副詞

から逸脱する用法がない」(笹本 2006 : 119) という見解が書かれることも出てきている。森田 (1980 : 207) では、チョット、スコシ、ショーショーの 3 語を比較して、チョットシタには「さほど低いレベルでない、ある程度の」のような程度小から逸脱した用法があるが、スコシ以外の 2 語は「意味面では『少し』と変わらない」とし、3 語の共通性を前提に丁寧度の違いで 3 語を説明していたのだから、その後の研究史の展開は別の方向に向かったと言える。チョットの特異な使い方をスコシとの違いではかるような方法では、スコシの特異性は浮かび上がらないだろう。程度小の副詞の研究史の展開の中で注目すべきは、飛田・浅田 (1994) で、早くから、程度小の副詞に共通して見られる程度小からの逸脱用法を指摘している点である。ショーショーが「自分のことについて用いられた場合には、実際には程度が大きいことを謙遜したり、婉曲に言ったりするニュアンスになる」としているし (p.193)、スコシについても、「郵便局まではここからすこしありますよ」と「二人のオフィスはすこし離れたところにある」の例文をあげ、「必ずしも距離が短いという意味ではなく、間投詞的に語調を整えるために入れている場合が往々にしてある」と述べ、別の例文について「話者が感情や判断をそのまま表明するのではなく、婉曲にしようとする心理を表す。客観的な意味としてはなくても同じであるが、『少し』を用いることによって、遠慮・慨嘆・反省などの暗示を伴う」としている点などが参考になるだろう (pp.203-204)。チョットとスコシの意味の違いについて藤原 (2005 : 75) は、スコシが「少量」、チョットが「ごく少量」を意味することで、「ちよっと勉強できるからといって、いい気になるなよ。」のような文でのチョットの適合性を説明しようとしているのが検討されてよい指摘だと思われるが、他にチョットの微小性を支持するような事例が出るだろうか。

日本語の程度副詞の使い方の特徴の大きな傾向を見出すためにはチョットから他の程度小の副詞にも目を向け、チョットだけでなく、そもそも日本語には程度小の副詞を頻繁に使う傾向があり、程度小の副詞の多用が日本語の(場合によっては、日本文化の)特徴になっているのではないかというのが筆者の考え方である。本稿では、程度小の副詞について考えるのに、個別事例からでなく、まず、日本語全体の傾向から考えることにした。近年発達したコーパスによる大規模調査を利用し、また、日本語、ドイツ語、英語の頻度辞典の記載順位を比較し、程度小の副詞の頻度が日本語が高いことを明らかにし、Google Books Ngram Viewer (これ以降たんに Ngram Viewer とする) の示すドイツ語や英語の程度副詞表現の傾向が日本語の傾向と異なることを述べる。個別事例

の検討については、今のところ対照言語学的な研究が見られないドイツ語をもとに日本語との違いを検討することにした。その際利用した資料が日本語の漫画や小説の独訳である。先行研究では見落とされてきた点を指摘すること以外にも、日本語の程度小の副詞の多用が外国語と比べても特徴的であることを日英独の頻度辞典の記載順位をもとに考察していく。

本稿で主に扱う程度副詞について限定しておく、チョットとスコシ、この二つを中心に、やや改まった言い方のショーショーを加えた3語とし、コーパス調査ではこの3語とトテモ、タイヘン、オーイニの6語を調査語とした。頻度大の副詞や外国語の対応語についても扱うが、本稿の関心はあくまでも日本語の程度小の副詞であり、必要最小限の記述に留めることになる。

1. 日本語の程度小の副詞は頻度辞典の順位が高い

Routledge から各国語の頻度辞典が出版されている¹。アメリカ英語のものが2010年に出版され、日本語のものが2013年に出版されている。ドイツ語のものは2020年に2版が出版されている。各国語版の頻度辞典が同一基準で作られたわけではないが、近年可能になっているコーパスなどの客観的なデータに基づき、上位5000位程度の語彙について順位や頻度を出したものである。同形で異なる品詞になることが多い英語では同形でも品詞の違いを区別して頻度を出しているが、日本語やドイツ語では区別されていない。したがって、程度小の副詞としての用法なのか、別の品詞としての用法なのかは、吟味する必要がある。

日本語の程度大と程度小の副詞の主なものを調べてみると、次のような順位が付けられている。

【A Frequency Dictionary of Japanese (2013) から日本語の程度大小の副詞の順位】

ちよっと ……………	85位	極めて ……………	1200位
とても ……………	142位	やや ……………	1656位
少し ……………	190位	ごく ……………	1866位
大変 ……………	238位	少々 ……………	1928位
多少 ……………	1098位	大いに ……………	2347位

彭 (2006) が述べるように日本語のチョットには程度副詞から派生した意味がかなりあり、順位が最も高いのはそのせいもあるだろう。しかし、トテモの142

¹ 本稿では、A Frequency Dictionary of Japanese (2013)、A Frequency Dictionary of German, Second Edition (2020)、A Frequency Dictionary of American English (2010) の3冊を利用した。

位に続いてスコシの190位が続いているところを見ると、日本語では、程度小の副詞の方が程度大の副詞よりも頻度が高いと推定できる。タイヘンの順位も238位だが、タイヘンはナ形容詞として採用されていて、「大きな家を掃除するのは大変だ。」の用例が出してあり、副詞用法は、この語の用法の一部であり、238位は程度副詞としての順位ではない。程度小の副詞の多用は日本語の特徴であり、本稿では、これを前提に調査を進めることにするが、ドイツ語や英語では程度小の副詞の頻度が高いということはなく、他にも同様の傾向を示す言語があるのかどうかまでは分からないが、日本語の特徴の一つを捉える内容だと思われる。

ドイツ語では頻度大の副詞の方が順位が上である。ganz が³69位で、sehr が⁸¹位である。程度小の副詞表現と言えるのは、ein wenig の wenig が³102位で、ein bisschen の bisschen が³301位であるが、とくに wenig では、副詞表現以外の形容詞としての用法が順位に影響していると考えられるので、程度小の副詞の用法の順位ならもっと下がるのが予想できる。etwas も副詞表現としても使われ¹⁰⁰位にあるが、「何か、something」という意味の代名詞用法が中心の語なので、程度小の副詞用法ならはるかに下位になるはずである。程度副詞の用法に限定して考えるなら、結局、ドイツ語では程度小の副詞は日本語と比べてあまり使われていないことが頻度辞典の順位から推定できるということになるだろう。

英語の場合も同様に程度大の副詞の頻度が高く、程度小の副詞では、a little の little が⁴⁴⁰位だ。a bit の bit は⁹⁷⁵位である。一方、頻度大の副詞としては、very が³105位、much が³298位なので、こちらの方が順位が上である。slightly が¹⁴⁴⁰位、somewhat が¹⁸⁶⁹位である。日本語と比べて頻度小の副詞や副詞表現は順位が低く、使用頻度が低いと考えられる。

ドイツ語や英語に比べて程度小の副詞の頻度が高いのはなぜだろうか。日本語の頻度小の副詞は、頻度大の副詞よりも用法が広いことについては小池・小林・細川・山口(1990:273-274)が比較構文での使用可能性の点で指摘している。程度大の副詞を単純程度副詞と比較程度副詞の二つに分けていて、「単なる程度の大小を表す計量構文と他と比較した場合の程度の大小を表す比較構文」の区別だが、使える副詞は異なると述べている。トテモは計量構文には使えるが、比較構文だとズットなどを使うことになる。しかし、程度小の副詞ならどちらでも使える。程度小の副詞の用法は程度大の副詞よりも用法が広いわけである。国立国語研究所が提供する「現代日本語書き言葉均衡コーパス

(BCCWJ)]²を検索アプリケーションの「中納言」で「[名詞] + より + [程度副詞] + ([形容詞] / [形状詞³])」という表現パターンで、チョット、スコシ、ショーショー、トテモ、タイヘン、オオイニ、ズット、ダンゼン、ヨホドのどの程度副詞が使われているか調べてみると⁴、程度大ではヨリが比較の意味ではなく、由来の意味で使われるタイヘンは使用例があったが⁵、トテモとオオイニには使用例がなかった。やはり、単純程度副詞は比較用法では使えないのだろう。一方、スコシはズットに次いで使われているし、チョットもダンゼンやヨホドよりも多く使われている。

【表1】 他と比較する場合の単純程度副詞と比較程度副詞 (BCCWJ)

表現パターン	程度副詞			程度大の単純程度副詞			程度大の比較程度副詞			総計
	ちょっと	少し	少々	とても	大変	大いに	ずっと	断然	余程	
[名詞]より+ [程度副詞]+ [形容詞]/[形状詞]	28件	147件	5件	0件	2件	0件	169件	11件	15件	377件

しかし、日本語の程度小の副詞の使用頻度が高いことをこの仕組みからだけ説明することはできないだろう。とくに外国語と比較した場合の日本語の程度小

² 本稿では日本語コーパスはもっぱら BCCWJ を利用したが、中納言 2.4.5 データバージョン 2020.02 である。レジスターの絞り込みなどをせずにコーパス全体を検索している。現状の小規模な口語コーパスでは十分な使用例が集まらなかったため、「書き言葉」の均衡コーパスであるが、規模が大きく、文学作品中の会話だけでなく、ブログや「知恵袋」などの口語に近いと考えられる日本語も含まれているため BCCWJ を選択した。

³ BCCWJ の品詞分類では「形容動詞」がなく、形容動詞の語幹が「形状詞」と分析される。形容動詞と名詞の共通性を重視した分析方法ということのようで、形容動詞の語尾の部分は助動詞「だ」と分析される。

⁴ 調査は「語彙素」を使っているもので、表記には関係なく調べている。実際に使われていた「書字形出現形」は様々だった可能性がある。ここで使った検索条件式で示しておく、以下の通り。
 キー: (語彙素="一寸" OR 語彙素="少し" OR 語彙素="少々" OR 語彙素="寸も" OR 語彙素="大変" OR 語彙素="大いに" OR 語彙素="ずっと" OR 語彙素="余程" OR 語彙素="断然")
 AND 前方共起: 品詞 LIKE "名詞%" ON 2 WORDS FROM キー DISPLAY WITH KEY
 AND 前方共起: 語彙素="より" ON 1 WORDS FROM キー DISPLAY WITH KEY
 AND 後方共起: (品詞 LIKE "形容詞%" OR 品詞 LIKE "形状詞%") ON 1 WORDS FROM キー DISPLAY WITH KEY
 WITH OPTIONS tglKugiri="|" AND tglBunKugiri="#" AND limitToSelfSentence="1" AND tglFixVariable="2" AND tglWords="20" AND unit="1" AND encoding="UTF-16LE" AND endOfLine="CRLF"

⁵ 小池・小林・細川・山口 (1990: 273) によると、タイヘンは単純程度副詞である。オオイニについては書かれていないが、ふるまいは単純程度動詞だと思われる。タイヘンが使われていた 2 例は、「従来より」や「国民より」と「より」が比較の対象ではなく、出所を表す意味で使われた用例で、比較程度副詞の用例ではない。BCCWJ の品詞分類ではヨリは「助詞-格助詞」と分類され、格助詞以上に細かい指定はできない。

の副詞の多用の説明にはならない可能性があるだろう。なぜなら、ドイツ語や英語でも程度大の副詞でもっとも一般的な *sehr* や *very* は比較級とは使えないからである。また、その一方で、程度小の副詞表現は日本語と同じように使える点で日本語と共通している。Ngram Viewer では、コマで区切って検索することで、大量の Google Books の文献の中から 5 語連続までの頻度がコマで区切って調べられるが、ドイツ語は、*ein wenig mehr*, *ein bißchen mehr*, *ein bisschen mehr*, *sehr mehr* で German (2019)⁶を調べてみると、程度小の副詞表現だったら使用例が確認できるが、*sehr* ではパーセント表示の使用頻度の割合が 0 ではないが、それに近く、ほとんど使われていないことが分かる。英語の *very* と *a bit* や *a little* の関係も全く同じで、*very more* は 0 に近いが、*a bit more* や *a little more* なら使われている。日独英で、理由は分からないが、程度大では比較用法で使える程度副詞と計量用法では異なるが、程度小ではどちらの用法でも同じ副詞表現が使えるということになる。

以下、比較構文とは無関係に日本語の程度小の副詞の多用について考えていくことにする。

2. 日本語コーパスや Ngram Viewer も検討に加えると

コーパス調査は国立国語研究所で公開されている BCCWJ コーパスでおこなったが、チョットとスコシにショーショーを加えた 3 語を程度小の副詞の調査語にした。ショーショーは敬語とも関連して、特定の文脈では使用頻度が上がることが期待されたためである。程度小の副詞が 3 語なら、程度大の副詞（および副詞表現）も 3 語考えるのが適当だが、トテモとタイヘン⁷とオーイニの 3 語を選んだ。オーイニは一般には頻度がそれほど高くないが、漢語のスル動詞と使う場合には頻度がかなり上がることも分かったので加えた。また、タイヘンとオーイニはコーパスでは共に副詞とされており、検索が容易である点も利点である。なお、検索には「語彙素」を利用したので、複数の書字形出現形が対応している点には注意されたい。「ちょっと」は、漢字をできるだけ使うことになっているらしい語彙素で「一寸」にまとめられることになるが、実際の使

⁶ 現在、German (2019) のほかに German (2012) が選択できるようになっている。German (2019) では、各種の口語形の頻度が 21 世紀になって急激に上昇しているものが多く観察されるので、21 世紀の資料の質や量が変わったことが考えられるが、詳細は発表されていないようである。なお、Ngram Viewer は日本語には対応していない。

⁷ 前章で述べたように Routledge の日本語頻度辞典では、「大変」はナ形容詞と分類され、順位が出されているが、BCCWJ では「副詞」とされている。

用例では「ちょっと」でも「ちょいと」でも「ちと」でもまとめて検索されるので、本稿の表に出てくる「ちょっと」の数値にはそれらの書字形出現形の分が数は少ないと思われるが含まれている。

2.1 負の意味をやわらげる程度小の副詞

負の意味をやわらげる働きがチョットにあることはこれまでも指摘されている。すでに述べたことだが、チョットにだけこういう用法があるかのような書き方をしている先行研究が見られ、芳賀・佐々木・門倉（1996：171-172）は『「ちょっと」の多義性は、『少し』や『少々』では言い換えられないところで発揮される』と述べ、「否定的なニュアンスの言葉に『ちょっと』がつく』場合についても書いているが、十分な量の資料を検討した結果ではないのではないだろうか。コーパスで正負の意味の形容詞に先行する程度副詞を調べてみると、「ちょっと」だけが多く使われているわけではないことがはっきりする。

グループ・ジャマシー編（1991：223-224）では、類似の婉曲用法を「程度のやわらげ」と「語調のやわらげ」として、後者に負の意味をやわらげるチョットの用法を入れていて、『大変』『無理』『むづかしい』のような否定的な表現につけて、語調をやわらげるのに使う」とまとめている。

本稿では、これ以降、同様の表を示す場合、優勢な程度副詞を示す目的で、20%以上のセルに網掛けをかけることにする。

[表2] 後続する形容詞が正負の意味をもつ場合（BCCWJ）

後続形容詞		ちょっと	少し	少々	とても	大変	大いに	総計
		程度小			程度大			
[形容詞]		22% (3029件)	22% (3076件)	2% (308件)	41% (5670件)	12% (1618件)	0% (32件)	100% (13733件)
ウレシイ	+	11% (72件)	4% (23件)	0% (0件)	73% (472件)	13% (82件)	0% (1件)	100% (650件)
タノシイ		5% (17件)	2% (8件)	0% (0件)	87% (317件)	5% (20件)	1% (3件)	100% (365件)
カナシイ	-	24% (38件)	20% (31件)	1% (1件)	53% (83件)	1% (2件)	1% (2件)	100% (157件)
クヤシイ		29% (14件)	17% (8件)	6% (3件)	33% (16件)	8% (4件)	6% (3件)	100% (48件)

結果を見ると、正負の意味は程度副詞の出現頻度に影響を与えることが分かるだろう。負の意味では程度小の副詞の頻度が上がり、正の意味では程度大の程度副詞の頻度が上がることが確認できる。ただし、オーイニの場合は、正負の意味とは無関係のようだ。実は、ここで調査した4語はシク活用の形容詞だが、理由ははっきりしないが、プラスの意味のシク活用の形容詞は、程度小の副詞は使いにくい可能性がある（BCCWJの語彙素による調査：スコシ美しい 0件、スコシ可愛らしい 0件、スコシ素晴らしい 0件）。ウレシイやタノシイと程度小の副詞がやや使いにくいのはプラスの意味のシク活用の形容詞の全体的傾向が関係している可能性があるだろう。また、そういうことも考えると、マイナスの意味のカナシイやクヤシイの結果はシク活用でありながら程度小の副詞の使用割合が大きく増えていて、際立っていると言えそうだ。

次に、副詞に程度副詞が先行する場合についても見ておきたい。必ずしも程度副詞が多く使われる条件ではないと思われるが、意味と形式の似た副詞のビックリとガツカリとウンザリが後続する場合を〔表3〕にまとめておく。

〔表3〕 副詞が後続する場合の程度副詞（BCCWJ）

副詞が 後続する場合	ちょっと	少し	少々	とても	大変	大いに	総計
	程度小			程度大			
副詞(全体)	35% (660件)	26% (485件)	1% (26件)	29% (548件)	8% (149件)	1% (28件)	100% (1896件)
びっくり	75% (114件)	9% (13件)	2% (3件)	9% (14件)	4% (6件)	1% (2件)	100% (152件)
がっかり	53% (42件)	27% (21件)	8% (6件)	9% (7件)	1% (1件)	3% (2件)	100% (79件)
うんざり	47% (8件)	24% (4件)	29% (5件)	0% (0件)	0% (0件)	0% (0件)	100% (17件)

全体で22%だった形容詞に先行するチョットが副詞では35%になり、形容詞以上に程度小の副詞の頻度が高くなるようだ。しかし、負の意味だったら程度小の副詞が増えるかどうかは明瞭ではない。ガツカリとウンザリは負の意味と言えそうだが、ビックリは負の意味とは言えない。にもかかわらず、チョットが75%と極めて高い頻度を示している。また、トテモなどの程度大の副詞の使用が明らかに減っている。無意志的な心理を表すような副詞の傾向が関係している可能性もあるだろう。副詞が後続する場合は負の意味で程度小が増えるのか

どうかははっきりしないが、もともと程度小の副詞の割合が高いことは間違いない。反対に、形容詞と比べて程度大の副詞の頻度は低めと言えるだろう。

ドイツ語では、日本語とことなり、負の意味だからといって程度小の副詞表現⁸の頻度が上がるということはなく、「悲しい」という意味の形容詞でよく使われるのは程度大の副詞表現だということが以下の Ngram Viewer の調査で明らかである。ここで調べている程度副詞表現は、sehr、ganz、ein wenig、etwas、ein bisschen の5表現である。最初の2つが程度大で、残りの3つが程度小の副詞表現である。

【「悲しい」という意味のドイツ語の形容詞に先行する程度副詞表現】

①	sehr traurig	0.0000566062%	(程度大)
②	ganz traurig	0.0000095493%	(程度大)
③	ein wenig traurig	0.0000057668%	(程度小)
④	etwas traurig	0.0000056827%	(程度小)
⑤	ein bisschen traurig	0.0000018028%	(程度小)

現代ドイツ語でもっともふつうの程度大の副詞が sehr であるが、頻度は他を圧倒していて、「悲しい」だから頻度が少なくなるということはないことがわかる。次点の ganz も程度大であるが、sehr は5倍以上の頻度がある。③から⑤の程度小の表現の頻度は合わせても、sehr の頻度の2割をちょっと超えるぐらいである。したがって、日本語の「悲しい」がチョットとスコシを合わせると、トテモと拮抗しているという状況とはまったく違っていることが確認できる。

2.2 変化で表現する傾向と程度小の副詞

日本語は変化表現を使う傾向があり、形容詞にナルを付けた表現が使われることがある。この傾向と程度小の副詞の多用は無関係ではないと思われる。程度副詞の先行研究で日本語のこういう傾向について言及するものはないようだが、コーパスの調査では容易に確認できる傾向なので、ここで出しておきたい。もっとも、形容詞は全体で13733件が調査語に後続していたが、そのうち形容詞にナルを後続した表現は、1036件だったわけだから、極端に多いというわけではないだろう。

⁸ ここで「副詞表現」を使っているのは、ドイツ語は副詞専用の語が少なく、形容詞と兼用だったり (ganz, wenig)、名詞・代名詞由来だったり (etwas, bisschen)、複合表現で程度副詞相当 (形容詞としての用法も含まれる) として使える語だったり (ein wenig, ein bisschen)、そういう事情を考えたことである。

[表4] 形容詞の変化表現と程度大小の副詞 (BCCWJ)

副詞に 後続する形容詞	ちょっと	少し	少々	とても	大変	大いに	総計
	程度小			程度大			
[形容詞](全体)	22% (3029件)	22% (3076件)	2% (308件)	41% (5670件)	12% (1618件)	0% (32件)	100% (13733件)
[形容詞]ナル	20% (212件)	56% (578件)	2% (25件)	15% (155件)	6% (65件)	0% (1件)	100% (1036件)
大クナル	13% (13件)	75% (77件)	0% (0件)	8% (8件)	4% (4件)	0% (0件)	100% (102件)
良クナル	5% (3件)	68% (42件)	0% (0件)	15% (9件)	13% (8件)	0% (0件)	100% (62件)
長クナル	16% (8件)	67% (33件)	8% (4件)	4% (2件)	4% (2件)	0% (0件)	100% (49件)

形容詞が後続するもの全体のデータに比べて、「[形容詞] ナル」でスコシに後続するものの割合は、22%から56%に大幅に増えているし、程度大のトテモの割合は逆に41%から15%に大幅減である。もっとも、程度小の副詞の割合が増えているとはいえ、チョットの割合はほとんど変わらない。ここでは詳しく検討しないが、書き言葉のコーパスを調査していることも関係しているだろう。個別事例の「大きくなる」「良くなる」「長くなる」でもスコシの割合が大幅に増えていて、トテモの使用頻度が落ち込んでいることが観察できる。もっとも、変化表現にしないと程度小の副詞が使いにくくなるかどうかまでは分からないので、変化を程度小で表現する日本語の傾向には、さらに検討が必要であろう。BCCWJ コーパスで見つかった程度小の用例をチョットとスコシとショーショーで2つずつあげておきたい。

- ちょっと親しくなると、たいていはイングリッシュネームを教えてくれる。
- 「(…) お袋のところに一度寄って荷物を取ってきてから家に帰るからちょっと遅くなるな」
- なぜいろいろなことを話してくれなかったのだろうかと、少し淋しくなった。
- 私の産婆さんは、耳はすこし遠くなっていたが、(…)
- 話が少々ややこしくなった。
- 前置きが少々長くなるのをがまんしてもらいたい。

次に動詞について考えてみる。動詞にも変化を表す動詞があるが⁹、「増える」「汚れる」「濡れる」は、形容詞の変化表現と同様に程度小の副詞、とくにスコシが先行する例の割合が増えるようであり、トテモが先行する割合は減っている。「増える」「汚れる」は「大変」は使用割合が増えている点は理由がよく分らない。また、そもそも動詞は、全体で、トテモが現れるのは11%に過ぎず、程度小の副詞の方が程度大の副詞よりも使用頻度が全体で高くなっている点が特徴的である。「濡れる」は全体の用例数も17件で少ないが、トテモが使われていないのは、濡れることに関しては程度差が考えられないなどの理由があるだろう¹⁰。しかし、ドイツ語や英語の対応する形容詞を Ngram Viewer で調べてみると、sehr nass も very wet も実際に使われていることが確認できるし、程度小の副詞表現との共起の方が多いうことはまったくなく、日本語との違いの詳細は、今後、検討されていい問題であろう。また、日本語の動詞と程度差についても「濡れる」だけでなく、問題になりそうなのが、「違う」と「異なる」であろう。「違う」は頻度も高い動詞であるが、6語の調査語が「違う」に先行する例が BCCWJ に906件あったが、「ちょっと」(524件)、「少し」(331件)、「少々」(20件)、「とても」(5件)、「大変」(12件)、「大いに」(14件)で、程度小の3語で97%を占めていた。また、似た意味の動詞に「異なる」があるが、「違う」ほど頻度の高くない「異なる」の場合も、6語の調査語が先行する例が BCCWJ に102件で、「ちょっと」(15件)、「少し」(45件)、「少々」(7件)、「とても」(1件)、「大変」(4件)、「大いに」(30件)で、程度小の3語で66%になり、「違う」ほどではないが、程度小の副詞が優勢である。「ちょっと」が意外におおくなかったり、「大いに」が増えていたりするのは、「異なる」のふさわしい文体が口語ではなく、書き言葉だからであろう。

⁹ 日本語の動詞には状態動詞が少ないので、動詞の基本は動作動詞や変化動詞であるが、合わせて「変化」を表す動詞と見なすこともできるだろう。動詞が一般に程度小の副詞と共起しやすいことも説明できると思われる。

¹⁰ 「濡れた」には厳密な程度差の意味は欠如しているだろう。「そんなに濡れていない」のような言い方は、厳密には、程度差を前提にしているわけではなく、濡れた範囲の大小が問題になっているのだろう。スコシやチョットの程度小の副詞が「濡れた」で使えるのは、やはり、本来の程度というよりは、詳細は不明な点もあるが、濡れた範囲の大小などの程度から派生した意味用法なのではないだろうか。

[表5] 変化動詞に先行する程度大小の副詞 (BCCWJ)

副詞と 後続動詞	ちょっと	少し	少々	とても	大変	大いに	総計
	程度小			程度大			
[動詞]	42% (9287件)	36% (7953件)	2% (478件)	11% (2403件)	3% (620件)	6% (1241件)	100% (21982件)
増える	13% (6件)	42% (19件)	0% (0件)	13% (6件)	27% (12件)	4% (2件)	100% (45件)
汚れる	5% (1件)	60% (12件)	5% (1件)	10% (2件)	20% (4件)	0% (0件)	100% (20件)
濡れる	18% (3件)	71% (12件)	6% (1件)	0% (0件)	6% (1件)	0% (0件)	100% (17件)

名詞を使った変化表現の形式についても考えてみたが、「[名詞]になる」も考えられるが、現実のこの形式の使い方は、変化表現として使われていない例が多いのではないと思われる。たとえば、「勉強になる」や「参考になる」は対象の変化としては使われることはないだろう。コーパスで先行する程度副詞を調べてみても、程度小が増えるどころか、程度小の副詞がほとんど使われなかったという結果になった。「参考になる」は BCCWJ 全体で90件あったが、「ちょっと」(3件)、「少し」(0件)、「少々」(0件)、「とても」(31件)、「大変」(33件)、「大いに」(26件)で、使用されるのはほとんどが程度大の副詞だった。「勉強になる」は54件になるが、「ちょっと」(0件)、「少し」(0件)、「少々」(1件)、「とても」(23件)、「大変」(25件)、「大いに」(5件)で、やはり、ほとんど程度大の副詞で使用例が埋められていた。

変化表現や動詞の場合には程度小の副詞の使用が程度大の使用をはるかに凌駕することも確認した。それは日本語の程度小の副詞の特徴と言えるが、外国語とは異なる性質である。Ngram Viewer では、膨大な書き言葉のデータをもとに過去数百年分の頻度数のパーセントのデータを5語連続まで表示してくれる。ドイツ語の頻度大小の副詞が日本語と異なり頻度大の副詞が優勢であることを確認しておこう。[表5] で見た変化の意味の動詞に含まれる「疲れる」¹¹ は、程度小の副詞の使用が優勢だったが、「疲れた」の場合は、[表6] のように、さらに程度小の副詞が優勢になるようだ。

¹¹ コーパスでは語彙素で調べているので、「疲れる」の数に「疲れた」の数も計算されている。「疲れた」は語彙素では「疲れる」+「た」と分析されることになるからだ。したがって、「疲れる」から「疲れた」を取り除けば、さらに違いが顕著になったはずである。

【表6】「疲れた」に先行する程度大小の副詞（BCCWJ）

副詞と 後続動詞	ちょっと	少し	少々	とても	大変	大いに	総計
	程度小			程度大			
疲れる	38% (65件)	23% (40件)	5% (9件)	30% (52件)	4% (7件)	0% (0件)	100% (173件)
疲れた	46% (21件)	30% (14件)	9% (4件)	15% (7件)	0% (0件)	0% (0件)	100% (46件)

話者や相手の状態を指して「疲れた」というときに程度小が使いやすくなることと関連していると思われる。動詞の場合は、トテモの頻度がもともとあまり高くないこともあるが、程度小が程度大を「疲れる」でも圧倒し、「疲れた」になると、程度大のトテモは15%に過ぎず、程度小が85%になっている。ドイツ語ではこのようなことは考えられず、「疲れた」に相当するのは形容詞の müde などになるが、日本語と異なり、変化ではなく、状態で表現することになるが、程度小ではなく、程度大の副詞の sehr が大差で優勢である。Ngram Viewer の German (2019) の2000年時点の割合の多い順に示すと次のようになっている。ドイツ語の程度副詞表現として調べたのは「悲しい」と同様の5表現である。

【「疲れた」という意味のドイツ語の形容詞に先行する程度副詞表現】

- ① sehr müde 0.0000349549% (程度大)
- ② etwas müde 0.0000086542% (程度小)
- ③ ein wenig müde 0.0000041101% (程度小)
- ④ ganz müde 0.0000034869% (程度大)
- ⑤ ein bisschen müde 0.0000010866% (程度小)

「悲しい」の結果よりは程度小の表現の頻度が上がっているが、程度小の②と③と⑤を合わせても①の頻度の半分に過ぎない。ということで、日本語とドイツ語では、「疲れた」場合に使える程度の大小表現がまったくことになっていて、日本語の程度小がドイツ語の程度小で訳されてしまうと、極端に不自然になる場合がありそうである。話し相手が疲れたかどうか聞くような場合が日独翻訳資料¹²にあったが、チョットは訳されていない。

¹² 本稿での翻訳資料は日本語からドイツ語のものだけだが、**目**と**独**で示した。書誌情報は、略記した引用名で日本語原典についてだけ示すが、本稿の末尾に独訳者などの情報もまとめてある。

☐ 「ちょっと疲れた？」(小説センセイ：花見その2)

独 Bist du müde?

花見の宴会を経て、バーで飲み直したあとに花見の終わった場所に戻ってきたかつての同級生男女の会話であるが、漫画版でも「ちょっと疲れた？」のままであるが、独訳は、やはり、程度小の副詞は訳出せず Bist du müde? が使われている。ドイツ語では、Ngram Viewer の結果からも読み取れるように程度大なら使うこともあるが、程度小の副詞を müde と使うことは割とまれで、こういう場合に使うのはおかしいということだろう。

3. 日独翻訳資料の観察データを加えた程度小の副詞

1章と2章では日本語の程度小の副詞の傾向を頻度辞典やコーパスや Ngram Viewer のデータから日本語の程度小の副詞の頻度が高いことなどを見た。ここでは、日独翻訳資料をもとに個別事例について、従来の先行研究で検討されてきたような観点についても、検討してみたい。日本語の程度小の副詞の用法の中にはドイツ語にできないものがどのような用法なのか、近年さかんに出版されるようになった漫画やアニメ関連小説などの翻訳を利用して調べてみた。翻訳資料には、下記の例のように、日本語の程度小の副詞が訳出されない例や、程度小が程度大の副詞で訳される例は少なくない。

☐ ちょっと大人げなかったなあ (漫画晴れゆく空)

独 ICH HAB MICH BENOMMEN WIE EIN TEENAGER¹³.

「ちょっと大人げない」が「ティーンエイジャーみたいに振舞った」のように訳されているが、独訳に程度小の副詞に相当するものはない。この場合のチョットがどのような用法なのかは、もっと多くの用例がないと断言することはできないが、話者が自分の行為を反省しているが、それを認めたくないという気持ちに関係しているのかもしれない。チョットなら認めようということかもしれない。話者自身のことなら、3.3で見るように、自分の体調や状態について使う程度小の副詞の例はあるので、これも関係があるかもしれない。

3.1 命令・依頼表現に出てくる程度小の副詞

これは、程度小の副詞一般ではなく、チョットに独特の用法とされるようで、

¹³ 元のドイツ語の漫画が全文大文字で書かれているので、そのようにしてある。思考や地の文の場合には、文頭と名詞の語頭のみ大文字で書く通常の書き方をする場合もある。

笹本（2006：131）は、『『少し』が行為要求文と共起しうるときは、常に程度や数量を限定する用法であり、それ以外では共起制限があるのに対して、『ちょっと』は、基本的に行為要求文と共起しうる』と述べている。実際、翻訳資料でもドイツ語の程度小の副詞との対応がないチョットは行為要求文ですぐに見つかる。

☐ ち…ちょっと／やめてよ——（漫画晴れゆく空）

☒ JETZT HÖR SCHON AUF MIT DEM QUATSCH!

☐ 【仲良し】くんはもうちょっと人間と接しなさい

☒ DU MUSST NOCH MEHR MIT ANDEREN LEUTEN KOMMUNIZIEREN!

しかし、次にあげる例では、スコシが使われているが、独訳ではやはり程度小の副詞の対応がない。つまり、スコシは訳されていない。笹本（2006）が言うようにスコシが行為要求文で程度小を必ず表現するものなら訳出されるはずである。

☐ 少し酔いをさましなさい（漫画センセイの鞆）

☒ Sie... ... müssen wieder nüchtern werden.

スコシと言っているが、スコシダケに言い換えることもできないし、このスコシも文字通り程度小を表しているわけではないだろう。「最低でも少し」という意味合いで言っているならあり得ないことはないだろうが、そういう言い方をドイツですることはないということだろう。次の例ではモースコシが使われている。

☐ ツキコさん／¹⁴もう少し頭を／お使いなさい（漫画センセイの鞆）

☒ Ich bitte Sie, Tsukiko! Denken Sie doch einmal nach!

漫画版ではなく、小説版でもモースコシは独訳には反映がなく、無視されている。独訳には対応がないと言えるだろう。

☐ 「ツキコさん、もう少し頭をお使いなさい。そんなはずがあるわけなししょう」（小説センセイの鞆：島へ その1）

☒ » Gebrauchen Sie doch mal Ihren Kopf. Das kann doch gar nicht sein, oder? <<

¹⁴ 日本の漫画は句読点がないものが多く、切れ目が分かったほうが分かりやすいと判断した文には改行の印に「／」を入れた。

もうスコシの対応は、漫画も小説も独訳にはない。相手を非難する意味合いもありそうだが、言い方が強くないようにする働きが程度小の副詞にあると解釈できる。笹本（2006：124）は行為要求文で使われるチョットに2タイプを想定していて、「相手が動作を遂行する義務感を少なくし、要求度を下げるもの」と「強制力をもって相手に動作を遂行させるようにするもの」があるとしているが、ここで見たスコシの用法は前者と解釈することもできるだろう。したがって、スコシにないチョットの用法は後者であり、「チョットやめてよ」の場合に「スコシやめてよ」にならないのはそのためと説明できるだろう。

3.2 相手への批判は程度小の副詞で抑制的に表現する傾向

直接、相手の批判につながらなくても、相手と異なる意見で反論する際の緩衝として一般に自己主張の軽減という作用の関連でまとめることも可能だろうか。この用法について薄井（2005）はチョットの用法として記述していて、日本語の程度小の副詞一般の特徴とは考えていないようだが、以下の例のようにスコシも使われていることが分かる。

☐ 最近、少し化粧が濃くなっているようだ。服も派手だ。あんなのは貴女らしくない。(小説容疑者 X：16章)

☑ Du scheinst Dich neuerdings stärker zu schminken. Und ziehst Du Dich auch auffälliger an. Das passt nicht zu Dir.

署名の無い手紙に書いてあった内容だが、差出人は受取人の女のストーカーの役割を演じてこの内容を書いている。相手の化粧が濃くなっていると非難している内容だが、スコシを使うことで非難の強さが弱められているということだろう。本来の程度小の意味なら、少しだけ化粧が濃くなったぐらいなら大したことはないと言えるはずであろう。このような使い方はドイツ語にはなく、独訳は、比較級を使い、前よりも化粧が濃くなっていると述べる内容にとどめており、程度小の副詞は使用していない。

☐ 「でも三葉、昨日はマジでちょっとヘンやったよ」と、テッシーの訴えを華麗に無視してサヤちゃんが言う。(小説君の名は：2章)

☑ „Aber gestern warst du echt komisch, Mitsuha“ erkärt Saya, während sie Teshis Beschwerde großzügig ignoriert.

「マジでちょっとヘン」が echt komisch と訳しているので、「マジでヘン」に対

応はしている翻訳になっているが、チョットに対応する部分はない。友だちの昨日の様子がおかしかったことを伝える文であるが、チョットはよくない内容の批判的内容を伝えるために、遠慮や配慮を加えたものと考えられるだろう。類似の程度小の副詞の使い方はドイツ語にはないということだろう。

日 翔…やっぱり少し変… (漫画 Orange : 3 巻)

独 KAKERU... ... BENIMMT SICH WIRKLICH MERKWÜRDIG.

上の例では、独訳にはスコシは wirklich という真実副詞で強調され、「ホントに変」のように訳されている。

日 私はそんな先生を、少し無責任だと思っています。(小説告白 : 2 章)

独 Das war ziemlich rücksichtslos von Ihnen, finde ich.

上の例では、スコシが ziemlich という程度中の副詞で訳されている。ziemlich は独和辞典では「かなり」などが対応している語であるが、誰かを責めているような文脈で使うなら、日本語なら、スコシの方が使いやすいのではないかと思う。BCCWJ で「かなり無責任」は 1 件だが、「ちょっと無責任」と「少し無責任」は 3 件ずつで、「とても無責任」が 2 件だった¹⁵。

相手に批判ではないが、相手の体調や状態について話者の考えを指摘するような場合にも程度小の副詞は現れやすいようだ。これは次の 3.3 の話者自身の体調や状態を程度小の副詞で表す傾向と対になっているようである。しかし、理由ははっきりしない。相手が指摘されるのが嫌な事柄なら、弱めて言っていることになる可能性もあるが、これですべて説明が付くわけではないだろう。下の翻訳例では、「少し元気がない」と指摘しているが、独訳では、程度小の副詞はない。この場合は、とくに指摘されて嫌なことでもないが、聞く方はスコシを使っている。

日 翔 / どこか / 悪いの? / 少し / 元気がない / ようだけど (漫画 Orange : 4 巻)

独 KAKERU ... WAS IST LOS? DU SIEHST BEDRÜCKT AUS.

次の例では、「少し痩せたね」のようなことを指摘されたようだが、相手が場合

¹⁵ 現状でもっとも規模の大きなコーパスだが、Google 検索などと比べるとはるかに規模が小さく、自分の語感で判断できそうな用例でも多くの例は見つからない。そういう意味では、コーパスはインフォーマントに対するアンケート調査に変わりうるものでもないようだ。

によっては受けるショックの緩和という働きと言えなくもないかもしれない。しかし、独訳には程度小の副詞は入っていない。

☐ 美智子に少し痩せたねと言われる（漫画晴れゆく空）

独 MICHIKO FINDET, ICH HABE ABGENOMMEN.

この漫画に限らず、相手が痩せているときに「少し痩せたんじゃない？」や「ちょっと太った？」と聞くようなことは割とありそうだが¹⁶、その場合の程度小の副詞は、相手へのショックをやわらげているということになるのだろうか。

ここでは、相手や第三者への批判や反論は、程度小の副詞で弱めて発言する傾向があることを確認し、ドイツ語に程度小の副詞のままでは訳せないことを確認した。相手の体調や状態を指摘するときの程度小の副詞の多用についても例をあげたが、次の3.3の話者自身の体調や状態と合わせて適当な理由が考案されるのが分かりやすいように思うが、本稿では指摘だけにとどめておきたい。

3.3 自分の体調や状態を程度小の副詞で抑制的に表現する傾向

先行研究では、自分に関して高い評価を自分で与えるようなことが抑制され、謙遜する場合の程度小の副詞の使用以外は明確な指摘はされていないようである。飛田・浅田（1994：204）がショーショーについて「あらたまった場面で用いられ、実際には程度が大きいのを婉曲に言ったり謙遜したりするニュアンスがある」と書いているような使い方である。しかし、自分のことを言う場合の程度小の副詞の用法は、ショーショーに限らないし、日独翻訳資料では頻繁に観察できた。自分の体調や状態を程度小の副詞で抑制的に表現する場合があったが、自分の体調を程度小で表現する傾向は、まわりに心配させないという配慮と関係しているだろう。独訳では程度小のままでは翻訳できなく、無視されることもあるが、それどころか、程度大の副詞で訳されることもあり、日本語はドイツ語と大きく異なる使い方をしていることが分かる。

¹⁶ Googleで「痩せたんじゃない」を検索（引用符+完全一致、2020/10/22）してみると、程度中のカナリよりも程度小のチョットやスコシが使いやすくなっていることが分かる。程度大のトテモは数件程度で、ほとんど使われていない。「太った」でも傾向は変わらないが、痩せたいひとはいても太りたいひとは一般にいないことも反映してか、話題にすることが少ないのだろう。もっとも多いチョットでも8790件で、全体的にヒット数は少なくなる。

“ちょっと痩せたんじゃない”（41,700件）

“少し痩せたんじゃない”（36,800件）

“かなり痩せたんじゃない”（17,000件）

“とても痩せたんじゃない”（4件）

☐ 「ごめんなさい。ちょっと……疲れて」それ以外、言い訳が思いつかなかった。それに実際ひどく疲れていた。(小説容疑者 X : 19章)

☛ » Entschuldige, ich war plötzlich so müde ... « Eine bessere Ausrede fiel ihr auf die Schnelle nicht ein. Außerdem stimmte es, sie fühlte sich wie gerädert.

「ちょっと……疲れて」は、待ち合わせの場所に行かなかった理由を説明する発言だが、直後に「ひどく疲れていた」という説明が書かれていて、程度小の副詞が本来の意味では使われていないことが小説の中で明らかになっている。ドイツ語訳では、原作の「ちょっと」は強調の so と形容詞の組み合わせで表現されているので、程度小ではなく、程度大の表現になっていると言えるだろう。

☐ ごめん… ちょっと具合悪くなっちゃって… (漫画 Orange : 2巻)

☛ SORRY ...MIR WAR PLÖTZLICH SCHWINDELIG...

この用例でも独訳にチョットに対応する語はなく、「急にめまいがした」のように訳され、程度小の副詞に対応する訳はない。「具合悪く」も「めまい」に替えて訳されている。次の例の独訳でも、上と同じように、「急に」を加えて「急にめまいがした」と表現している。程度小の副詞の訳出はない。ドイツ語では「急に、突然」の意味の plötzlich の頻度辞典の順位も高く¹⁷、詳細は不明だが、日本語の対応語よりも頻繁に出現する可能性があるだろう。

☐ ちょっとめまいしただけだし (漫画 Orange : 3巻)

☛ MIR WAR NUR PLÖTZLICH SO SCHWINDELIG.

☐ ちょっとめまいがする… (漫画晴れゆく空)

☛ MIR IST SWHWINDELIG...

体調が悪い場合だけでなく、良い場合についても日本語では程度小の副詞が現れやすいようだ。この場合は、相手に心配させない配慮とは言えないので、そういう言い方に対する好みだと思われるが、自分のことを慎重に扱う態度ということかもしれない。

☐ なんだか少し体調が良い気がする (漫画晴れゆく空)

¹⁷ Routledge の頻度辞典 (1章参照) で調べると、plötzlich は456位で、百万語あたりの調整頻度が181になっている。日本語の「突然」は852位で調整頻度が75である。詳細を調べるには類義表現の頻度も考える必要があると思うが、日独語ともに類義表現は副詞でなかったり、単語でなかったりするので、頻度辞典では調べられない。

独 Es geht mir besser. Viel besser.

独訳にスコシの対応がないどころか、viel besser が追加されていて、比較級で以前より体調がいいことを伝えるだけでなく、程度大で強調されている。この例のような事例まで見ると、日独の言葉の意味の問題を超えて、自分の体調をどのように表現するかで文化的な違いもあるように思われる。

日 ちょっと数値が／変だったから／家族が心配して／入院騒ぎになったけど（漫画君の臍臓を食べたい）

独 ICH MUSS HIERBLEIBEN. MEINE FAMILIE HAT AUF DIE SCHLECHTEN WERTE MEINER UNTERSUCHUNGEN ÜBERREAGIERT.

程度小のチョットを独訳に反映させるなら、「家族がちょっと悪い値に過剰反応した」のようにできたところだが、「家族が悪い値に過剰反応した」と訳されている。

チョットではなく、スコシが使われる場合もある。友人同士の会話であるが、丁寧な言葉遣いなら、チョットよりもスコシの方が適切な場合もあるのだろう。

日 「すまないが、今日は帰ってくれないか。少し疲れた」（小説容疑者 X：17 章）

独 » Entschuldige, aber könntest du jetzt bitte gehen? Ich bin sehr müde. <<

この場合も、地の文に「実際、湯川はひどく消耗しているように思えた」と書かれていて、ひどく疲れていたことは間違いないようである。にもかかわらず、話者は「少し疲れた」と述べているのだから、日本語は、なんらかの条件があるにせよ、自分の体調や状態について過少申告する傾向があるということになる。相手に心配させない配慮ととらえることも可能だろう。ドイツ語訳では程度小の表現のままではなく、この文でも、程度大の sehr müde（＝とても疲れた）と訳されている。

体調だけでなく、自分が苦手なものを言葉にする場合にも程度小の副詞は使われるようで、次の文では、「ちょっと苦手」が使われている。これは、2. 1 の負の意味をやわらげるとされる程度小の副詞の用法の 1 タイプだろう。

日 いや絵はちょっと苦手だから小説家とかなら楽勝か？（小説君の名は：3 章）

独 Vielleicht sollte ich Mangazeichner werden, nein, dazu kann ich nicht gut

genug zeichnen. Aber vielleicht Schriftsteller oder so, das ist leichter.

独訳者は、「ちょっと苦手」を程度小の本来の意味で解釈したようで、「ちょっとだけ苦手」と理解したようで、「十分にうまいというわけではない」という内容の独文になっている。しかし、原文の受け止め方は必ずしもそうならないと思う。筆者ならチョットはここでは程度副詞の本来の意味を失っていて、「苦手」だと言っているに過ぎないと思うところである。

白 今なら (...) 少しわかる (漫画 Orange : 3 卷)

独 ICH KANN GUT NACHVOLLZIEHEN, DASS (...)

上の例では、「わかる」が「追体験できる」と独訳されていて、「少し」のかわりに「うまく、上手に、よく」の意味の gut が使われているので、程度小は生かされず、逆に、程度の強調を受けて訳されている。

自分自身に高評価を与えるようなことも抑制される傾向がある。次の例では、自分のことを好きだったか聞いているが、そのままでは傲慢に思われることにもなりそうだろう。

白 「君は昔、私のことがちょっと好きだったでしょう」(小説君の名は：3 章)

独 „Du warst doch mal in mich verliebt, oder?“

日本語では、チョットがないと強気で傲慢な女性と思われそうで、チョットはあった方が言いやすくなりそうか。これは「謙遜」に似た使い方だと考えられそうである。

3.4 ほめる場合の抑制的評価に使われる程度小の副詞

相手をほめる場合にも表現を抑制する傾向が日本語にはあるようだ。三宅 (2004)、藤原 (2005)、笹本 (2006) で指摘されている。ほめる場合に限らないのであれば、劉 (1999 : 36-37) が「程度がそれほど低くないこと」を表すチョットやチョットシタとして扱っている用法が関連しているだろう。日独翻訳資料でも例はあったが、チョットの例だけであり、スコシでは使いにくい用法かもしれない。

白 でもちょっとカッコよかったよ (漫画晴れゆく空)

独 DAS WAR STARK.

「ちょっとカッコよかった」が war stark と訳されているが、stark は本来は「強

い」という意味の形容詞だが、俗語で誉め言葉として使えるので、ここではそういう使い方であるが、程度小の副詞相当の表現は独訳に入っていない。

☐ なんかちょっとかわいい (漫画 Orange : 1 巻)

独 IRGENDWIERICHTIG NIEDLICH

チョットが「本当に」と訳されている。翻訳資料ではこのくらいしかほめる場合の例が見つけられなかったが、BCCWJ コーパスの調査結果から判断すると、抑制的にほめる傾向は男性に多いかもしれない。たとえば、セクシーな女性に対して男性が使いそうなほめ言葉に「色っぽい」があるが、「色っぽい」の前に2章のコーパス調査で使った6語の調査語が先行するものをBCCWJで検索すると、見つかった12件のうち、チョット7件、スコシ3件、トテモ2件で、程度小が程度大よりもはるかに多いことが分かる。グループ・ジャマシー編(1998: 224)では、こういう用法のチョットを「プラス評価」と分類し、「この本、ちょっとおもしろいよ」や「この先にちょっといいレストランを見つけた」などの例文とともに、「程度の低さより、話し手が普通以上に良いと判断していることを示す」と説明した上でスコシにはこの用法はないとしている。チョットだけでなく、スコシにもこの用法があることは、3件の「少し色っぽい」が見つかったことが示しているだろう。一方、日本の女性の男性に対するほめ言葉で長く使われてきた「やさしい人」で同様の調査をすると10件すべてがトテモであり、「とてもやさしい人」や「とってもやさしい人」を使っていた。また、「イケメン(語彙素は「いけメン」)」も現代の女性が多く使いそうだが、程度表現を先行させる例はBCCWJでは見つからなかったが、かつて使われていた「ハンサム」で調べると、見つかった13件中2件がチョットで、11件はトテモで、やはり、程度大が優勢であった。

3.5 自分の意見を述べたり、相手の意見を聞く場合の抑制的表現

話し手が自分自身のことを謙遜して言う場合でもなく、話し相手がいても相手への配慮でも遠慮でもないような場合でも程度小の副詞が使われて、強いて言うなら、自分自身の主張や意見や考えを控えめに表現するということになるだろう。この場合も程度副詞から逸脱した使い方がされることがあるようだし、構文単位で指定することができる場合もあるようだ。「[副詞] + [形容詞] + ナイ + ?¹⁸」をBCCWJで検索すると、18件の用例が合致したが、そのうち13

¹⁸ BCCWJ では句読点も語彙素として指定することができる。

件が副詞にチョットを使うものだった。「ちょっと、おかしくない？」のような言い方は、相手への反論になる場合もありそうだが、そうならない場合も多そうだ。BCCWJには下記のような例のチョットを含む文があった。

- ちょっと寒くない？
- ちょっとずるくない？
- ちょっと早くない？
- ちょっと高くね？
- ちっと違うくない？

形容詞に「過ぎる」を付けて、「～すぎない？」という聞き方も同様に程度小の副詞が使いやすい表現パターンであるのは、次の例で明らかである。これをもとに「[副詞] + [形容詞] + 過ぎる + [ない] + ?」をBCCWJで検索すると、2例見つかるが、やはり、副詞は次にあげるようにチョットだったので、チョットと相性のよい表現パターンなのだろう。

- ちょっと小さすぎない？
- ちょっと遅すぎない？

翻訳資料にも形容詞を使った「ちょっと～すぎない」が出てきた。独訳では「大きすぎる」の対応はあるが、チョットの対応はない。

日 この制服……ちょっと大きすぎないかな？（漫画おおかみこども）

独 Diese Schuluniform ist doch zu groß, oder?

次の例では、話題になっている少年がいないところで、小説の地の文で少女の気持ちが語られ「ちょっとムカつく」とされているが、ふつうのムカつき方よりも弱めだということはないだろう。しかも、会話でもなく、話題の少年その場にはいないのだから、遠慮や配慮が必要な状況ではない。チョットは、話者の主張・意見を控えめにするという働きだと考えられる。独訳では、「なんかちょっとムカつく」のナンカがirgendwieで訳されているが、チョットの対応は独訳には見当たらない。

日 立花瀧とかいうこの男は、私と同じ歳でこんな世界に生きているのか。(…)
なんかちょっとムカつく。(小説君の名は：3章)

独 In dieser Welt lebt er also, der Junge, der so alt ist wie ich und Taki Tachibana heißt.(...) Und ich bin irgendwie genervt.

次の例のスコシも、同様に自説の婉曲化で解釈できるだろう。話者が自分の判断を認めたくないが、認めざるを得ない場合にスコシを使っているという解釈も可能だと思われる。

☐ 君みたいに特殊な事情を抱えてる人間には僕も少し興味はある（漫画君の臍臓を食べたい）

☑ MENSCHEN IN BESONDEREN SITUATIONEN — WIE DU — INTERESSIEREN MICH SCHON.

次の例で「冗談で」というのは、漫画 Orange の 1 巻で、毎日自分で弁当を作っているという女の子に「じゃあ ついでに俺にも作ってよ弁当」と言っていて、このことを言っている。実際に弁当を作ってきてもらったときに、「俺本当は期待してた」とも言っており、チョット期待しちゃったというのが本来の程度小の意味ではないことが分かる。5 巻は過去のことを思い出している思考内容としてなので、相手に対する遠慮や配慮が必要な場所ではない。つまり、自分の感情について記述する際に、相手とは無関係に抑制が入っていると考えられ、独訳ではそんな抑制は無視されていると言える。

☐ 俺は冗談で／言ったつもり／だったのに／菜穂は／まっすぐに／俺を見て／言ってくれた／だからちょっと／期待しちゃったよ（漫画 Orange：5 巻）

☑ Eigentlich war das nur ein Scherz. Aber sie hat es mir angeboten. Deswegen hatte ich mich darauf gefreut.

次の例も日記に書いている文章なので、遠慮や配慮がかかわる状況ではない。ここで評価されている生徒は、周囲の学生とはまったく口を利かずに静かに本を読んでいるような男の子で、本来なら「ちょっと違う」ではなく、「まったく違う」でもよいはずの状況である。独訳では、チョットは訳さず、「他の生徒と違う」と訳されている。日本語のチョットは、やはり、ここでまとめている他の例と同様に自分の判断・評価を明確に示さない傾向ということにまとめられるだろう。

☐（名前は塗りつぶされている）くんは他の人とはちょっと違う感じがする（漫画君の臍臓を食べたい：下巻）

☑ IST ANDERS ALS ANDERE SCHÜLER.

3.6 小さな心の動きとモノにあまり動じない人物

日本語の小説の記述には、とくに登場人物の感情の動きは小さいものでも書く傾向があるのではないだろうか。程度小の副詞を使った記述や「小さい」や

「小さな」を使った記述が多い可能性もある。先行研究でこのようなことを書いているものは見つけていないが、文学作品の記述の仕方には一定の傾向がある可能性はあるだろう。文学作品の登場人物だと必ずしも話者ではないが、3.3の「自分の体調や状態」を述べるときに現れる程度小の副詞とも関連している可能性もあるだろう。以下の2例で、小さな心の動きが原典で記述されているが、独訳では程度小の副詞は訳出されていない。

☐ 菜穂の気持ちも知らずに俺に行けて言った翔に少し腹が立った（漫画 Orange：6巻）

独 EHRlich GESAGT WAR ICH SAUER AUF KAKERU... ... WEIL ER NICHTS VON NAHOS GEFÜHLEN WUSSTE UND VON MIR HINTETIRIEBEN WERDEN MUSSTE.

☐ 少し邪魔したくなった（漫画 Orange：6巻）

独 DESWEGEN WOLLTE ICH SIE STÖREN.

スコシ腹が立ったり、スコシ邪魔したくなったのは、どちらも話者の心の動きであるという共通点がある。誰かに遠慮や配慮が必要な状況ではないし、3.5の評価・判断とも似ているが、対象に対する評価・判断を下しているわけではなく、話者の心の動きである点が違っている。このような状況で程度小の副詞が多用されるのは、話者の心理の動きを程度小の副詞で表現する好みがあることから来ている可能性があるだろう。また、モノに動じない人物へのプラス評価も関係していると思われる。激しく怒ったり、とても悲しんでいるような人物はあまり評価されないという傾向もありそうだ。スコシ悲しんだり、スコシ怒ったりするのは、そのような好みの反映と解釈することができるだろう。アニメに出てくる超人的主人公が「ちょっと調子狂うな」と言いながら、問題を解決するような状況は容易に想像できるだろう。

最後に、もう一つ、調査語の程度小の副詞以外も出てくる例をあげておきたい。翻訳では、正確に原典に沿って翻訳しようという意図がないわけではないだろう。にもかかわらず、程度問題において日独で対応がおかしくなる例は、次の例のように、容易に見つかると思われる。なお、次の例にはこれまで扱ってこなかった程度小の副詞イクラカも含まれている。

☐ わたしは手洗いにいき、勢いよく用を足した。それで少し気がおさまったのか、ふたたびセンセイの隣に座ったときにはいくらか鎮まった心もちに

なっていた。(小説センセイの鞆、「多生」)

独 Kopfschüttelnd ging ich zur Toilette und erleichterte mich nachdrücklich, was sehr beruhigend wirkte. Als ich mich wieder neben den Seinsei setzte, hatte ich mein inneres Gleichgewicht zurückerlangt.

若い男の酔っ払いに絡まれた老年男性と中年女性のカップルについての話だが、下線部で程度表現が使われている。しかし、ドイツ語では、「少し気がおさまった」のスコシはツヨク (nachdrücklich) とトテモ (sehr) に替えられている、「いくらか静まった心もち」のイクラカは無視されている。また、程度にも関係する情態副詞表現の「勢いよく」も独訳ではカットされている。この場面で勢いよく用を足したのは飲酒により大量に水分を摂取したからだが、それが理由でスコシ気がおさまるというのも必然性や論理性があるわけではない。必ずしも日本語以外の言語文化で理解される内容ではないだろう。この状況で「鎮まった」をイクラカと弱める必然性もないだろう。こういう使い方が日本の文学作品に多いのなら、それは、日本人の好みや文化に関係するのだろう。大きな感情の起伏を好まないような感覚が、このような書き方につながっているのではないだろうか。独訳では、程度の大小は無視されるか、逆転させられている。トイレに行ったことで、トテモ楽になり、心をトテモ落ち着かせ、センセイの隣に戻ったときには心の平衡を取り戻していた、のように訳されている。ドイツ語は、この例をもとに考えるなら、日本語とは逆に程度大で記述する文化的傾向をもっている可能性があるだろう。

4. 本稿で明らかになったことと今後検討が必要なこと

本稿の内容を簡単にまとめて、今後さらに検討が必要だと思われることについても、まず、箇条書きで書いておきたい。

- ① 日本語の程度小の副詞の頻度が高いことは、頻度辞典の順位に現れていて、ドイツ語や英語に比べても順位が高いことは明らかである。
- ② 相手に反論する場合や、誰かの悪口を言うような場合や、自分の体調を伝えるような場合に程度小の副詞が使われやすいはずであるが、BCCWJ コーパス調査では、負の意味の形容詞で程度小の副詞の頻度が上がることが確認できた。
- ③ BCCWJ コーパス調査では、形容詞の変化表現、つまり「～(く)なる」で程度小の副詞が大きく優勢になることを確認した。変化を程度小で表現

する傾向とまとめることができるだろう。日本語の変化表現にドイツ語は状態表現が対応することも多く、これも両言語の違いに関係している可能性がある。

- ④ Ngram Viewer による調査では、ドイツ語では程度小の副詞の頻度が程度大の副詞表現に対して優勢になることはなさそうで、調べた範囲では頻度大の副詞 *sehr* が他の副詞に対して大差で優勢だった。今回は程度大の副詞の使用にはそれほど注目しなかったが、ドイツ語では程度大の副詞を現実以上に多用する傾向が見いだされる可能性があるだろう。
- ⑤ 日独翻訳資料の調査では、程度小の副詞がドイツ語で表現されなかったり、反対に程度大の副詞で訳されている例を検討したが、かなりの量だった。話者が自分のことを謙遜したり、相手に対する遠慮や配慮などが関係しているような場合は分かりやすいが、これとは異なる条件であらわれる程度小の副詞の使用例もあり、話者の心理描写にこれがあらわれていた。激しく感情の揺れがある人物が描かれず、感情の抑制的な人物が描かれることも関係していそうで、小さな心の動きに対する文化的好みがあるのではないかという考えについても触れた。

最後の文化的傾向から説明しようという試みは、主に3.6で述べたことだが、類例などをしっかり調べてみる必要があるだろう。日独翻訳資料は、かつてはドイツ語から日本語への翻訳が中心であったが、漫画やアニメが世界中に広がるにつれて、多くの資料が集まるようになっていく。本稿の調査はそういう時代背景のもとで可能になったものである。筆者は長年日本の大学でドイツ語教員をしてきて、ドイツ語の *sehr* が日本語でそのままトテモに訳したのではやや不自然な日本語になり、日本人が使いそうにない言い方になる印象を感じていたし、日本語で程度小の副詞を使いたくなるような文をドイツ語にそのまま翻訳するとドイツ語らしい文にならないことを感じていた。その理由は今回の調査で幾分明らかにできたのではないかと思われる。

ショーショーも調査に含めているが、十分に述べることはできていない。この語が頻繁に使われるような条件には小説や漫画は入っていないのだと思われるが、商売用言葉遣いなど、敬語が関係する状況では、頻繁に使われているのではないかと思われる。パキラハウス (1990: 130) は「価格についての客の不満」を「プラスに転換して説得する方法」として「お値段は少々張りますが長持ちいたしますから かえって お得です」という言い回しを載せている。

「少々」という程度小の副詞を使っているが、客が不満をもつほどに値段が高いことを想定しているのだから、現実には「少々」ではなく、「とても高いもの」を「少々」と言いくるめて説得することが推奨されているようである。「私どもの品物は 決して お安くはございません しかし」という言い回しもあげているが、「よい品物だから高いのだ、しかし長い目で見れば絶対得であるという自信を示す」と説明している。著者の解説する商売用言葉遣いでは、「高い」ものを「安くない」と言うのがポイントであるようだ。商売上の言葉遣いにはやや強引なところがあるが、これにショーショーも関連していると思われる。調査した翻訳資料でこれに類する程度小の副詞の例はなかったが、こういう使い方の程度小の副詞の使い方も日本語の広がり的一部分になっていると思われる。

今後、日本語と外国語のあいだの種々多様な翻訳資料が増えていき、それぞれの言語でコーパスも整備されると思われるので、本稿で一端を示したような日本語とドイツ語の違いも容易に実証することができるようになるものと思われる。日本語の程度小の副詞の使い方がもっと詳細に検討され、本稿で述べた内容への賛否や修正意見が書かれる将来が来ることを期待したい。

【翻訳資料の引用名と出典】本文中の引用名を最初にあげる。

小説君の名は：『小説 君の名は。』、新海誠、角川文庫、2016。独訳書：*your name*、訳：Claudia Peter、出版社：Egmont Verlag。

小説告白：『告白』、港かなえ、双葉社、2008。独訳書：*Geständnisse*、訳：Sabine Lohmann、出版社：C. Bertelsmann。

小説センセイの鞆：『センセイの鞆』、川上弘美、平凡社、2001。独訳書：*Der Himmel ist blau, die Erde ist weiß*、訳：Ursula Gräfe / Kimiko Nakayama-Ziegler、出版社：dtv。

小説容疑者 X：『容疑者 X の献身』、東野圭吾、文藝春秋、2005。独訳：*Verdächtige Geliebte*、訳：Ursula Gräfe、出版社：Klett-Cotta。

漫画おおかみこども：『おおかみこどもの雨と雪』、漫画：優、原作：細田守、角川書店、2015。独訳書：*Ame & Yuki die Wolfskinder*、訳：Luise Steggewentz、出版社：Tokyopop。

漫画 Orange：Orange、高野苺、双葉社、2013-2017。独訳書：*Orange*、訳：Lasse Christiansen、出版社：Carlsen Verlag。

漫画君の膵臓：『君の膵臓を食べたい』上・下、漫画：桐原いづみ、原作：住野よる、双葉社、2017。独訳書：*SAKURA I want to eat your pancreas*、訳：

Yuko Keller、出版社：Carlsen Verlag。

漫画センセイの鞆：『センセイの鞆』、漫画：谷口ジロー、原作：川上弘美、双葉社、2010。独訳書：『*Der Himmel ist blau, die Erde ist weiß*』、訳：John Schmitt-Weigand、出版社：Carlsen Verlag。

漫画晴れゆく空：『晴れゆく空』、谷口ジロー、集英社、2005。独訳書：『*Bis in den Himmel*』、訳：Tsuwame／Resel Rebersch、出版社：Verlag Schreiber & Leser。

【参考文献】

薄井良子（2005）「反対意見表明における「ちょっと」の役割について」『国際化学』(12)、神戸大学大学院総合人間科学研究科、1-19。

岡本佐智子・斎藤シゲミ（2004）「日本語副詞「ちょっと」における多義性と機能」『北海道文教大学論集』(5)、北海道文教大学、65-76。

グループ・ジャマシー編（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』、くろしお出版。

小池清治・小林賢次・細川英雄・山口佳也編（2002）『日本語表現・文型事典』、朝倉書店。

小泉穰子（2015）「「少し」と「ちょっと」の比較分析：アンケート調査による使用頻度の差異」『山口国文』(38)、山口大学人文学部国語国文学会、86-73。

小椋秀樹編（2020）『日本語の語彙・表記』、コーパスで学ぶ日本語学、朝倉書店。

笹本明子（2006）「「ちょっと」の発話機能について—行為要求文に表れる「ちょっと」を中心に」『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』(6)、115-136。

高野愛子（2016）「程度副詞「ちょっと」をめぐる文体差：日本語学習者作文コーパスから見られる傾向」『語学教育研究論叢』(33)、大東文化大学語学教育研究所、333-355。

丹保健一（1981）「程度副詞の諸相—「ほぼ」「やや」「少し」を中心に」『国語学研究』(21)、東北大学文学部国語学研究刊行会、11-19。

長野伸江（2005）『賞賛語・罵倒語辞典』、小学館。

ネガボ辞典制作委員会（2012）『ネガボ辞典』、主婦の友社。

芳賀綏・佐々木瑞枝・門倉正美（1996）『あいまい語辞典』、東京堂。

パキラハウス（1990）『ちょっとしたものの言い方』、講談社。

- 飛田良文・浅田秀子 (1994)『現代副詞用法辞典』、東京堂。
- 藤原浩史 (2005)「副詞「ちょっと」の意味構造」『国文目白』(44)、日本女子大学、68-78。
- 彭飛 (1990)『外国人を悩ませる日本人の言語慣習に関する研究』、和泉書店。
- 彭飛 (2006)『日本人と中国人とのコミュニケーション:「ちょっと」はちょっと…ポンフェイ博士の日本語の不思議』、和泉書院。
- 真嶋潤子・濱田朱美 (1999)「日本語初級教科書の分析試案—「ちょっと」の意味・用法から」『日本語・日本文化研究』(9)、大阪外国語大学日本語講座、27-44。
- 三宅節子 (2003)「程度小を表わす副詞の一研究:「すこし/ちょっと」を対象に」『日本語・日本文化』29、大阪大学、115-136。
- 森田良行 (1980)『基礎日本語2』、角川書店。
- 森田良行 (2008)『動詞・形容詞・副詞の事典』東京堂。
- 劉亜髓 (1999)「「ちょっと」についての一考察」『文学史研究』(40)、大阪市立大学、32-38。
- 類語研究会 (1991)『似た言葉使い分け辞典』、創拓社。